

平成 15 年 6 月 10 日発行

大山執行部の重点課題



平成 15 年 4 月 1 日より
大山喬史教授（東京医科歯
科大学）を第 30 代日本補
綴歯科学会会長として、新
執行部がスタートしまし
た。会長の所信はすでに

ニューズレター春特別号や
補綴誌 47 巻 2 号の巻頭言でお届けしていますが、
その「重点課題」実現に向け、新執行部は会務運
営に鋭意努力してまいります。

【重点課題】

1. 咀嚼機能と発語機能の検査・評価法の保険導 入に向けた提言

従来から医療問題検討委員会などで検討してき
た咀嚼機能あるいは発語機能の検査・評価法の保
険導入に向けた提言を行う。

2. 補綴診療における Evidence Based Den- tistry の明示

補綴診療の Evidence 確立のためのブレンス
トーミング。

3. 本学会の法人格取得/実現にむけての準備

NPO 法人、中間法人、社団法人などの違いを
十分に吟味し、本学会に最良となる法人を選択
し、その取得に向けた準備を押し進める。

4. グローバル化を踏まえた表彰制度の検討

近年のグローバル化を踏まえた再検討を実施
し、研究者育成を行う。

5. 東南アジア諸国との学会間学術交流の活性化

本年は大韓歯科補綴学会、Greater New York Acad-
emy of Prosthodontics との Joint Meeting が実現す
るが、さらに東南アジアの諸国との学会間学術交

流を図ることを検討する。

6. 学会の年 1 回開催に向けての準備

支部活動の重みづけのなど、多面的に具体案を
検討し、学会活動が低下しないような方策実現に
向けて準備する。

【会務の運営の基本方針】

会務の運営に関しては、前執行部の体制を踏襲
し、基本的には問題点を関連の委員長を含めた会
務連絡会あるいは委員長会で議論する。その後、
具体的な検討を各委員会に付託し、検討結果を理
事会、評議会、総会で審議いただく方針である。
重点項目のなかで、法人化に関しては、会務連絡
会と法人化担当委員長との合議で骨子を提示し、
法人化担当委員会に具体案の策定を付託する。ま
た、学会の年 1 回開催準備に関しては、会務連絡
会と学術委員長との合議で骨子を提示したう
えで、学術委員会に具体案の策定を付託するなど、
従来の会務連絡会に担当委員長を加えた拡大会務
連絡会として、弾力的な運営を行う方針である。

平成 15 年度委員会活動計画



学術委員会

委員長：河野正司

副委員長：井上 宏

< 懸案・引継ぎ >

1. 年 1 回開催を含めた学術大会改革。
2. メインテーマや企画決定のプロセスの整備。
3. プログラム委員会のあり方、演題の採択分

- 野，国際セッションの方向性を見直し。
4. 演題募集時の倫理規定の検討。
 5. コンペティションの効率化，公正化。
 6. 自己点検評価の推進。
 7. 所属表記法整理。
 8. 会場費の事前支給。

<基本方針>

- ・ 学術大会の年1回開催についての検討は今後，拡大会務連絡会にて行う。
- ・ 支部会と総会の位置づけを明確にする。
- ・ 国際セッションへの参加をアジア各国に働きかける。国内からの国際セッションへの応募についてはセレクションを行う。
- ・ 大学などに所属しない会員の研究発表のために，日本補綴歯科学会に倫理委員会を設ける。
- ・ 課題口演の課題として，機能評価に重点を置く。
- ・ 補綴領域におけるEBMを確立する。



編集委員会

委員長：石橋寛二
副委員長：藤田忠寛

<懸案・引継ぎ>

1. 補綴誌の誌面構成。
症例論文，総説，依頼論文，テーマ論文などを含めて，会員の要望に応えた誌面構成を企画する。
2. 論文査読方法の改善。
現行の査読システムを基本的に引き継いでいくとともに，学術雑誌としての投稿論文の質を保ちつつ量的確保が得られるよう努めていく。
3. 補綴誌のMEDLINE登録に向けての検討。
4. 補綴誌のオンラインジャーナル化に向けての検討。

<基本方針>

- ・ 補綴誌の質を大切にしつつ量的確保を図りながら，会員の先生方の日々の診療向上に寄与する雑誌となるよう充実した誌面構成としていく。



会計委員会

委員長：櫻井 薫
副委員長：川良美佐雄

<懸案・引継ぎ>

1. 大会経費の支出方法についての検討（参加者数に対応する支出には，学術大会の会計を細則で分離する必要がある。）
2. 認定関係事業は黒字，繰越金は増加。
3. 雑誌発行費は減少傾向，英文誌の発行費の漸増。
4. 会議費にしめる旅費の比率大。
5. 国際交流経費の漸増。
6. 法人化準備の予算の必要性。

<基本方針>

- ・ 学術大会のあり方，法人化に関する会計処理について，それぞれ拡大会務連絡会にて検討する。
- ・ 近隣諸国からの学術大会参加へのサポートなどの国際交流費を捻出する。
- ・ 会議の開催に際して，できるだけ会場費などの経費の削減を図る。



国際渉外委員会

委員長：古谷野 潔
副委員長：佐藤 亨

<懸案・引継ぎ>

1. 海外補綴学会，学術大会とのかかわり方。
 - ・ 各種国際学会との交流の推進と，その経緯などの情報提供を会員に行う。
 - ・ KAP：2年に1回のJoint Meetingの開催にむけての準備。
 - ・ GNYAP：参加者の確保。
 - ・ AAP：JPSとAAPとの関係を明確化。
 - ・ ICP：JPSがICPのOrganization Memberになることについての検討。
2. 学術委員会と連携し，国際渉外のイベント開

催の検討。

3. ホームページ，補綴誌，英文誌などを活用した
広報委員会との連携による JPS の海外への広報。
4. JPD について。
“en bloc” プログラムへの加入。

<基本方針>

- ・近隣諸国の補綴学会との学術交流を推進する。
- ・本学会の学術大会国際セッションへの参加をア
ジア各国の補綴学会を通じて働きかける。



用語検討委員会

委員長：田中貴信
副委員長：三浦宏之

<基本方針>

2001年2月に発行された歯科補綴学専門用語集の在庫も少なくなったため，平成16年度(2004)中に改訂版を出版する。それを前提として，以下の作業を行う。

1. 評議員を対象とするアンケート調査。
現在すでに実施中⇒委員会で整理，選択
2. 前期委員会用語リストの選別。
(歯科補綴学専門用語集—疾患・病名・検査編，
平成14年度発行：井上 宏委員長)
⇒委員会で選択
3. 古語，新語，固有名詞の選別。
(歯科補綴学用語集資料：平成9年度発行：
坂東永一委員長)
⇒委員会で選択
4. 英語の全面的な再確認。



医療問題検討委員会

委員長：市川哲雄
副委員長：佐藤博信

<懸案・引継ぎ>

1. 次期診療報酬改定。

- ・既存項目
硬質レジン前装冠の適用範囲拡大。
保険点数増額の提案（床副子の印象採得料，
PDの印象採得料）。
 - ・新規項目
支台歯形成の個別的算定（築造窩洞，GP，
TEKポストありなし，象牙質コーティング）。
床副子の咬合採得料の検討。
2. 中長期的な問題。
 - ・下顎運動検査の適用範囲拡大。
 - ・チェックバイトの算定範囲拡大（顎関節症など）。

<基本方針>

- ・日本補綴歯科学会としての歯科領域における機
能評価法の確立と，歯科保険導入に向けて日本
歯科医師会への働きかけを行う。
- ・補綴治療のクリニカルパスの作成。



会則等検討委員会

委員長：細井紀雄
副委員長：古屋良一

<懸案・引継ぎ>

1. 法人化に向けた会則の改正。

<基本方針>

- ・法人化に伴う会則の改正。
- ・優秀論文賞候補論文の対象拡大に伴う，表彰制
度に関する規定の改正。
- ・総会・学術大会を年1回の開催に変更した場合，
会則との整合性の検討。
- ・会則と認定医制度規則との整合性の検討。



広報委員会

委員長：冲本公繪
副委員長：北川 昇

<懸案・引継ぎ>

1. ニュースレターを巻末から巻頭へ変更。
⇒本号から実施

2. ホームページの充実.

- ・ガイドライン3部作のダウンロード。
⇒実施済み
- ・英文ホームページの充実.
- ・オンラインでの学術大会参加・演題申し込みの検討.
- ・各種情報発信.

<基本方針>

ニュースレター・ホームページなどを積極的に利用した効率的な広報活動を行う.

- ・執行部の活動方針・状況を迅速かつ正確に会員に知らせる.
- ・広く会員からの声をくみ上げ、役員会協議へ反映させる.
- ・学術大会を早く広く案内し、参加者の増加に努める.
- ・海外への本学会広報を積極的に行う.
- ・海外の情報を会員に伝える.
- ・市民への情報提供を活発に行う.
- ・市民からの質問に答える.



法人化担当委員会

委員長：川和忠治
副委員長：山内六男

<法人格申請について>

1. 法人格取得にむけての情報収集と会員への情報の提供.
 - ・法人格とは.
 - ・法人格取得の条件.
 - ・法人化取得にむけての準備状況.

<基本方針>

- ・現時点では法人化に関する情報が少ないため、法人化に詳しい方からのヒアリングを行う.
- ・情報を十分に収集した後、拡大会務連絡会にて議論を進める.



実技教育検討委員会

委員長：皆木省吾
副委員長：河野文昭

<懸案・引継ぎ>

1. 実技試験の課題の検討.
 - ・実施の可能性.
 - ・課題の妥当性.
2. 卒前教育における実技教育の基準.

<基本方針>

- ・歯科医師国家試験実技問題について、前執行部から引き継いだ実技問題素案を含めて実施の可能性、各大学の設備整備状況の把握、試験時間の妥当性および難易度の検討、採点の配点などを検討する.



研修教育検討委員会

委員長：川崎貴生
副委員長：石上友彦

<基本方針>

平成18年の卒後臨床研修の義務化を踏まえた、日本補綴歯科学会としての教育目標を提言する.



生涯学習検討委員会

委員長：早川巖
副委員長：松村英雄

<基本方針>

- ・学術大会の年1回開催を念頭に置くと支部会の役割が重要となるため、一般臨床家向けの内容を充実させることにより、支部会の活性化とともに生涯学習制度の基盤強化を行う.
- ・非会員にも魅力ある公開研修会などの開催を企画する.

- ・支部会の希望により、本部からの講師派遣も視野に入れる。



認定審議会

委員長：矢谷博文
副委員長：新谷明喜

<懸案・引継ぎ>

1. さらなる認定医の増強（主管校，事務局，認定審議会の連絡強化）。
2. 認定医資格のミニマムリクワイアメントの再検討。
3. 認定医症例論文の査読方法の検討（査読者の選定）。
4. 認定医研修会の開催日時の検討。

<基本方針>

- ・専門医制を念頭においた認定医制度のあり方を検証する。

第1回 韓・日共同学術大会開催される

第29代日本補綴歯科学会長の川添堯彬先生のもと、平成14年11月28日に本学会と大韓歯科補綴学会（KAP）の学術交流の締結がなされたことに続き、平成15年4月25日（金）、26日（土）、ソウルのロッテホテルにおいて、第1回韓・日共同学術大会が開催された。

大韓歯科補綴学会員の参加数は1,300名を超え、会場は熱気に溢れていた。会員一般発表のほか、2日間で5つのシンポジウム（I. Biologic Preparation, II. Overdenture, III. Problem Solving in Implant, IV. Sports Dentistry, V. Recent Development in Prosthodontics）が企画され、いずれも臨床に直接関係のあるテーマで、臨床症例が多く提示されていたのが印象的であった。本学会からは大山喬史学会長が特別講演講師として、“Sports Dentistry in Japan”と題して講演を行われた。また、シンポジウムIVでは前田芳信先生（大阪大学）が講演された。日本からは Oral Presentation 6題、Poster Presentation 18題の発表が行



大山喬史会長と Dae-Gyun Choi KAP 会長



レセプション受付風景

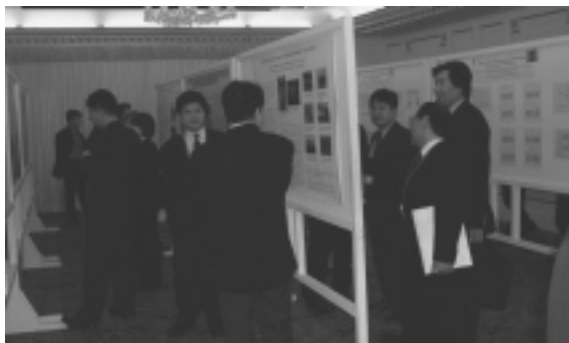
われた。以下に発表者と Award 受賞者を示す。

【口演発表：6題】

- ・浜野英也ほか（東京医科歯科大学）
- ・尾口仁志ほか（鶴見大学）
- ・佐藤正樹ほか（大阪歯科大学）
- ・山田純子ほか（大阪大学）
- ・中島美穂子ほか（九州大学）
- ・築山能大ほか（九州大学）

【ポスター発表：18題】

- ・鈴木浩樹ほか（東京歯科大学）
- ・ゴ・ソンミンほか（東京歯科大学）
- ・五味治徳ほか（日本歯科大学）
- ・笛木賢治ほか（東京医科歯科大学）



ポスター発表会場

- ・中 信二ほか（東京医科歯科大学）
- ・鈴木恭典ほか（鶴見大学）
- ・天野優一郎ほか（愛知学院大学）
- ・宮前 真ほか（愛知学院大学）
- ・石垣尚一ほか（大阪大学）
- ・森重恵美子ほか（大阪大学）
- ・大封幸太ほか（大阪大学）
- ・三浦治郎ほか（大阪大学）
- ・山口奈穂子ほか（大阪大学）
- ・久保隆靖ほか（広島大学）
- ・石川輝明ほか（徳島大学）
- ・古谷野 潔ほか（九州大学）
- ・鮎川保則ほか（九州大学）
- ・徳久雅弘ほか（九州大学）

Award

口演発表：築山能大ほか（九州大学）
 ポスター発表：三浦治郎ほか（大阪大学）

クルージング

学会参加者に対し、25日のイブニングセッションとして、1km幅の漢江でのクルージングが企画されており、250名の定員オーバーの希望で、人数制限をやむなく行っていると、その盛況に大会関係者は満足の様子であった。

船上では各大学からの選抜隠し芸・カラオケ大会でのアイデアの素晴らしさ、その熱気とパワーは、大韓歯科補綴学会会員の秘めたるパワーを感じさせた。（広報 沖本）

☞ ニュース 新任教授紹介

石島 勉先生

北海道医療大学医療科学センター（前 北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座助教授）

松村英雄先生

日本大学歯学部補綴学教室クラウンブリッジ学講座（前 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科摂食機能回復診断治療学分野助教授）

矢谷博文先生

大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座（前 岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野教授）

高橋 裕先生

福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野（前 福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野助教授）

鱒見進一先生

九州歯科大学歯科補綴学第一講座（前 九州歯科大学歯科補綴学第一講座助教授）

細川隆司先生

九州歯科大学歯科補綴学第二講座（前 広島大学歯学部附属病院口腔維持修復歯科講師）

第109回学術大会報告

第109回日本補綴歯科学会学術大会は、平成15年5月9日（金）～11日（日）に東京の品川区立総合区民会館「きゅりあん」で、大会長 石上友彦教授（日本大学）のもと、1,900名余りの多数の参加者を得て開催された。課題口演21題、口演発表38題、臨床口演3題、ポスター発表67題（含む国際セッション4題）と129題の口演発表が行われ、さらに特別講演、メインシンポジウム、2つの臨床シンポジウム、臨床教育研修、研究教育研修、技術・技工セッション、認定医研修と多彩な企画がなされた。

特別講演 「いい笑顔—コンピュータで探る—」

「いい顔にうつるテレビ電話がどうすれば作れるか」というところから研究が始まった原島 博先生



原島 博先生



左から石橋寛二先生，筒井昌秀先生，
中原リザ子先生，宮永美知代先生

(東京大学)の顔学者としての講演であった。会場では、実際に先生が使われるいろいろな表情を作ることができるソフトのデモを行ったり、多数の顔を重ねて平均顔を作ったり、100年後の「平均顔」をシミュレートしたりなど、コンピュータを用いて、顔について多面的な解析がなされた。そのなかで、職業や時代によって平均顔が異なり、環境や気のもち方でも顔はずいぶんと変わってくるということが説明された。また、写真家の撮った写真やプリクラの例を用いて、いい顔はコミュニケーションするなかで作られることが説明された。逆に免許証やスピード写真のような機械的な撮影では、いい顔を作るのは難しいとのことであった。さらに先入観は顔の印象をよくも悪くもする因子であり、それは先生が考案された「顔訓13カ条」の1つ、「いい顔、悪い顔は人から人へ伝わっていく」というように、顔とコミュニケーションとの間に重要なかわりがあるという解説であった。「人としてのいい顔」を実践するために非常に有意義な、また楽しい講演であった。(広報 諸井)

メインシンポジウム 「形態・機能美からトータルな美へ」

座長の大山会長の意向で、参加者に配布するための各講師の文献などの参考資料が冊子体として配布されてシンポジウムが始まった。トップは東京芸術大学美術学部の宮永美知代先生で、多数の西洋絵画を参照しながら、明暗の表現や絵画のなかに表現された時間を内包する『微笑』の意味、かたちの構築、リズムなど、美術に表現された『微笑』を軸に、光と陰、記憶、歪みに潜む美について説明された。

次に同じく東京芸大を卒業され、現在日本歯科大学歯学部歯科矯正学講座の教授である中原リザ子先生が、「自然に内在する美の法則」「美は快を生じる

積極的な価値である」「幼児期における視覚の固定」「視覚の捉える顔面の構造、特に“地と図”の原理」「視覚の原理を阻害する口蓋裂、各種の不正咬合について」説明された。自然の法則と生存に有利な形質に反応して、あるものは快感をもたらすような脳内への刷り込みが、進化の長大な時間をかけて行われたことが想定され、【美】とは、このような取り込められた外界の秩序に反応して快を覚える仕組みの1つなのではないだろうかと結ばれた。

美を表象する原理、原則などの基本的な講演を受け、歯科医療の最前線で活躍されておられる臨床医の筒井昌秀先生は、「補綴処置は形態・機能・審美を満足させるものでなくてはならない。また顎口腔機能のみならず全身の機能回復に役立つ医療であるが、同時に置換医療であり、生体にとっては負の行為であることを認識しなければならない」とのスタンスで、さまざまな症例を通し、コンセプトの実践を紹介された。

ラストの岩手医科大学教授の石橋寛二先生は「人の活動が身体的、精神的、社会的に調和のとれているうえで成り立つものと考えらるなら、現代社会における補綴の意義にも通じる内容と理解でき、それは、特にコミュニケーションをサポートする歯科医療の価値といいかえることができる。このコミュニケーションに欠かせないのが表情-アイデンティティで、補綴は創造性に溢れた個性を演出する重要な役割を担っている。顎口腔領域における審美の意義は、健康寿命の延長を目指した新しいライフスタイルの構築を支援するところにある」とこのシンポジウムを締めくくられた。「美」の根源、自然法則、深遠さ、文化・社会とのかかわり、歯科医療とのかかわりなど多くのことを考えさせられるシンポジウムであった。(広報 沖本)

臨床シンポジウム1 「磁性アタッチメントを用いた補綴臨床」

座長の細井紀雄先生による、磁性アタッチメントの補綴臨床への改良、応用などの時代背景、日本発の技術であることなどについてのミニレビューで本シンポジウムが始まった。

星合和基先生からは、『術後調査から見えてくるもの』というテーマで、長期にわたる術後観察から一口腔単位でみた場合の利用方法（適応症、禁忌症、設計など）について、臨床例を交えて、磁性アタッチメントの使用方法について講演された。

誉田雄司先生は、『磁性アタッチメントの臨床—鑄接からダイレクトボンド法へ—』というテーマで、ダイレクトボンド法、レーザー溶接法などの技術の開発の経緯、紹介と、クラウン形態で使用する可撤性ブリッジへの応用例を臨床例で示された。

木村幸平先生は、『白金鉄系磁石合金の可撤式クラウン・ブリッジへの応用』のテーマで、可撤式クラウン・ブリッジのユニークな新技術の開発を紹介された。方法は永久磁石合金を用いて外冠を、磁性ステンレス鋼を用いて内冠を作製し、外冠自体が磁石となるものであり、これまでの基礎的検討結果と現段階での臨床例を紹介された。

いずれも、貴重な報告であり、磁性アタッチメントを用いた補綴臨床の将来への示唆に富むものであった。さらに質疑応答では、磁性アタッチメントの現状での問題点、予後などについて活発な討論がなされ、将来に向けて多くの有益な示唆を与えたシンポジウムであった。 (広報 貞森)

臨床シンポジウム2 「SDA（短縮歯列）のコンセプト—その運用と限界—」

SDA（短縮歯列）のコンセプトは後方歯の欠損をあえて補綴しないことであり、1981年以来 Kayser らによって広められた。このシンポジウムでは、大野純一先生（スウェーデンデンタルセンター）、小宮山彌太郎先生（東関東支部）、山下秀一郎先生（松歯大）の3名が講演された。

まず、座長の五十嵐順正先生（松歯大）は、後方歯欠損患者の治療方針について、Göteborg 近郊の歯科医師と当学会評議員のデータ比較を示すとともに、SDA か義歯補綴をするか鑑別診断が大事であると述べられた。

大野先生の講演は、Göteborg 大学での経験をまじえながら、スウェーデンでは、SDA は治療ゴールの1つのオプションと考えられ、その背景にはメンテナンスシステムが整い、日本とは異なった社会/医療制度であることを紹介された。

続く小宮山先生は、日本人の場合、人種的な解剖学的差異や食材の違い、また食に対する思い入れなどが影響し、後方歯の補綴治療は「奥歯でものを噛みしめる」という自信の回復につながると述べられた。

また山下先生は、咬合支持の喪失と下顎頭の変位との関連性について実験的データを示しながら、ハイ・リスク群とロー・リスク群に大別でき、主観的評価と客観的評価から処置方針の分岐点となる基準について述べられた。

最終的に、SDA に対する当学会としての統一見解が必要であるということで、シンポジウムは終演した。 (広報 松山)

臨床教育研修 「診療ガイドライン」

2002年に作成された3つの診療ガイドラインについて、作成委員会の委員長であった河野正司先生の座長で、作成に携った先生方にそれぞれ解説していただいた。

当時の学会長であった川添堯彬先生（大歯大）からは、総説としてガイドラインの必要性和役割を講演いただいたのち、「咬合異常」、「顎機能障害」、「咀嚼障害評価法—主として咀嚼能力検査

CB MercuRay

1台の装置で
多彩なCT画像を提供します。

歯顎顔面用コンビームX線CT装置
マーキュレイ

販売元 株式会社 **ヨシタ**
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9 TEL03-3845-2951 (インプラント部直通)
製造元 日立メディコテクノロジー 〒277-0803 千葉県松江市小倉田17-7



左から小林先生，中野先生，
皆木先生，川添先生

法一」の3つの診療ガイドラインについて、おの
おの皆木省吾先生（岡大院），中野雅徳先生（徳
大），小林 博先生（新大院）により解説がされた。

川添先生は3つの分野が選ばれた理由につい
て、病名の重要性に触れられ、補綴で頻繁に用い
られる欠損に代わる病名の必要性を解説された。

皆木先生からは、咬合異常は一部の矯正治療を必
要とするものを除いて、多くは補綴の領域である
という強い認識を新たにしてほしいという発言があ
った。

中野先生からは、顎機能障害についてエビデ
ンスは不足ではあるが、ある程度コンセンサス得
られていること、この診療ガイドラインによって、
未熟な臨床家がボトムアップをしてほしいとい
う旨の発言があった。

最後に小林先生から、咀嚼能力検査法の診療ガ
イドライン作成の過程について解説があり、大山
会長の提唱するチェアサイドでの検査の確立に通
じる旨の発言があった。（広報 諸井）

**研究教育研修 「医療における物語と対話
—EBM vs NBM（ナラティブ・ペイスト・
メディスン）—**

過去3回の研究教育研修“EBMシリーズ”を
受け、佐藤裕二先生（昭和大）の企画によるもの
である。Narrativeとは「物語り」のことであり、
NBMとは臨床における物語りと対話を示す。
『Narrative Based Medicine : Dialogue and Discourse
in Clinical Practice』の日本語版の監修者である山
本和利先生（札医大）と斎藤清二先生（富山大）

両名から、この新たなNBMの概念や実際を、
EBMとの関係を交えて紹介いただいた。

山本先生は、“EBMとNBM”は“科学性と人間
性”にいい換えられ、たとえ統計学と臨床疫学を
駆使したEBMであっても、Evidenceが患者に当
てはまる部分は25%以下である。残りを補う手
法のひとつがNBMであり、患者の「語り」を通
じて患者の信念にアプローチすることであると講
演された。また、医学には科学性のみを、医療に
は科学性と人間性を必要とし、そのために医療従
事者はステレオタイプではなく、フレキシブルで
あり、患者と新たな物語りを作りながら患者中心
の医療を目指すことを促された。

斎藤先生は“EBMとNBMは車の両輪”で、患
者と治療者の対話自体が治療の重要な一部で
あり、それに科学的根拠を加えていく手法を、臨床
例を交えて示された。そして、われわれ医療従事
者は、患者を「対象」ではなく「主体」として捉
え、目の前の患者の最大幸福に焦点をあてるべき
ことが力説された。（広報 松山）

**技術・技工セッション 「歯冠色補綴における
美の追求」**

メインシンポジウムが同時進行で行われていた
ため、参加者はやや少なめであった。

まず座長も努められた末瀬一彦先生（大歯大歯
技専）が、『補綴における美の追求』と題して、
技工士の新しい役割、身体（歯）にやさしい新材
料、生きた補綴装置などについて講演された。



技術・技工セッション感謝状贈呈

2番手の木村健二先生（協和デンタルラボラトリー）は、『インプラント上部構造における歯冠色と形態の再現法』と題して、動画を駆使した目を引く臨床例を呈示された。

3番手の永野清司先生（長大附属病院中央技工室）は、『固定性補綴装置における歯冠色と形態の再現法』と題して、院内ラボの立場から、シェードテイキングの現状について講演された。

最後に、六人部慶彦先生（阪大院）は、『歯冠色補綴における色調、形態、機能の調和』と題して、歯科医師の立場から審美性を重視した窩洞形成法やティッシュマネージメントについて講演された。

ディスカッションでは、会場から質問があり活発な討議がなされたが、最終的にはどの先生も『歯冠色補綴における美の追求』には、患者・歯科医師・技工士の血の通ったコミュニケーションが必要であると強調された。（広報 濱野）

認定医研修 「社会に応える本学会の認定医・専門医とは」

平成15年5月11日（日）に、第8回認定医研修が品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて開催された。今回は、『社会に応える本学会の認定医・専門医とは』とのテーマで、座長に平井敏博先生（北医大）、講師に豊田 實先生（神歯大）、築山能大先生（九大院）、鈴木卓哉先生（岩医大）をお招きして講演が行われた。

最初に座長の平井先生から、医科における専門医

の現在の状況が説明され、厚生労働省の告示により、法人格を有する学会が認定した専門医資格を広告可能になったこと、日本補綴歯科学会においても大山喬史会長のもとで法人化を目指しているとの説明が行われた。

続いて、豊田先生が『補綴認定医の社会に対する貢献と今後の方向性について』と題して、現在までの本学会の認定医制度の歩みについて概説された。議論されている認定医資格の要件と専門医資格の要件とでは、大きな差異はみられないのではないかとの発言であった。

次に、築山先生が『認定医を習得し、後輩を指導する立場から』と題して、実際にケースプレゼンテーションを行って認定医を修得した体験から、その実際のHow toを提示された。さらに本学会のホームページからの資料なども示し、米国との比較もまじえて講演された。

最後に鈴木先生が『認定医であることが臨床の場でどう関わるのか』と題して、ご自身の行われたプレゼンテーションの症例を示されるとともに、補綴科に受診された患者さんのアンケート調査を発表された。その結果のなかに、「認定医」を知っていた方が30名中4名であったと報告があった。本学会としても“補綴”という言葉とともに認知度の向上を図ることの重要性を再認識し、何らかの手を打つ必要があると思われた。

その後、川添堯彬・前会長、石橋寛二・前認定審議会委員長の追加発言の後、フロアを交え大変活発なディスカッションが行われた。矢谷博文・認定審議会委員長の発言の後、最後に大山喬史会長が今後も継続して検討し、早い時期に法人化を実現したい旨の発言があり終了した。（広報 北川）

課題口演コンペティション受賞者

（日-会場-演題）

○=受賞者

I-1-5 家庭用DVカメラを用いた簡易型顎運動計測システムによる咀嚼運動の計測

○絹田宗一郎、若林一道、莊村泰治、小島哲也、長尾光理、松村響子、瑞森崇弘、中村隆志、高橋純造（阪大院）



ポスター会場



第108回学術大会デンツプライ賞受賞者

1-1-6 ヒトの自由咀嚼運動中にみられる二つの嚥下反射

○岡田 淳, 本間美和子, 野村修一, 山田好秋 (新大院)

1-1-8 口内法 X 線写真による海綿骨力学的特性の推定

○永井伸郎, 是竹克紀, 中島 克, 伊丹宏之, 佐藤裕二*, 赤川安正 (広大院, *昭和大)

1-2-7 チタン表面における骨芽細胞の cadherin 遺伝子発現の動態

○正木千尋, 山中威典, 細川隆司, 赤川安正 (広大院)

1-2-8 チタン抗菌処理法の開発

○石田和寛, 二川浩樹, 西村正宏, 西村春樹, 福島 整, 青木美枝, 尾崎由衛, 山城啓文, 浜田泰三 (広大院)

1-2-9 チタン上での骨芽細胞分化および石灰化における Cbfa1 遺伝子の関与

○波多賢二, 山下健次, 市田文孝, 久田邦博, 西村理行, 米田俊之, 池邊一典, 野首孝祠 (阪大院)

デンツプライ賞

(日-会場-演題) ○=受賞者

1-3-20 切歯路から側方滑走運動時の作業側下顎頭の運動様相をみる～下顎頭骨変化の有無による検討～

○細貝暁子, 河野正司, 子田 浩 (新大院)

1-3-24 咀嚼運動が脳循環系に及ぼす影響

○長谷川陽子, 小野高裕, 堀 一浩, 野首孝祠 (阪大院)

2-3-12 突然変異型アルカリホスファターゼ D 289 V の細胞生物学的解析—顎骨組織の石灰化における酵素の重要性—

○石田陽子, 河野正司, 織田公光 (新大院)

2-3-27 閉塞型睡眠時無呼吸低呼吸症候群に対する下顎前方位型口腔内装置の効果

○猪子芳美, 原田美紀, 清水公夫, 大沼智之, 森田修己, 河野正己 (日歯大新潟)

2-3-28 咬合平面の左右的傾斜と重心動揺の関係

○伊山慎二, 石川利一, 築山能大, 古谷野 潔 (九大院)

2-3-30 平衡側接触が側方限界運動へ及ぼす影響

○川口貴穂, 重本修伺, 坂東永一, 薩摩登誉子, 郡 元治, 竹内久裕, 北村万里子, 石川輝明, 中野雅徳 (徳大)

受賞者の声

昭和大学歯学部有床義歯学教室
柳澤洋之

この度、平成14年度日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞させていただき、誠に光栄であり、感謝しております。今回受賞させていただいた論文の要約は、インプラントのコーティング材の検索を目的として、生体適合性材料である高分子電解質錯体膜を用いて、歯肉線維芽細胞との接着性に関与する、細胞膜裏打ちタンパクの発現およびシグナル伝達の解析をするため、核内への最終伝達物質である Extracellular signal-regulated kinase の発現を解析し、同時に細胞周期についても検索したというものです。昭和大学歯学部有床義歯学教室の大学院に入学させていただいた当初は、研究というものがどういう過

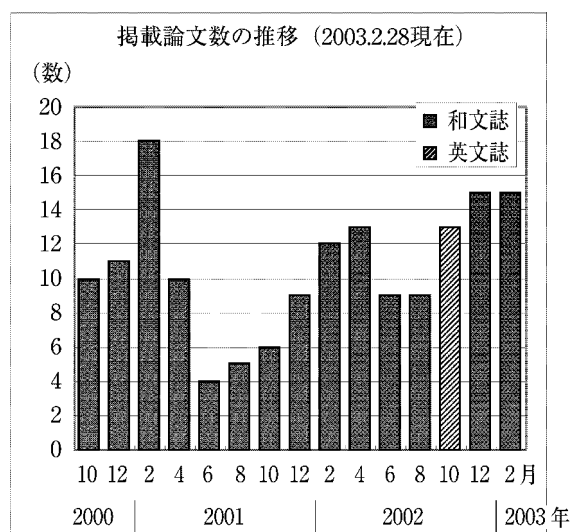
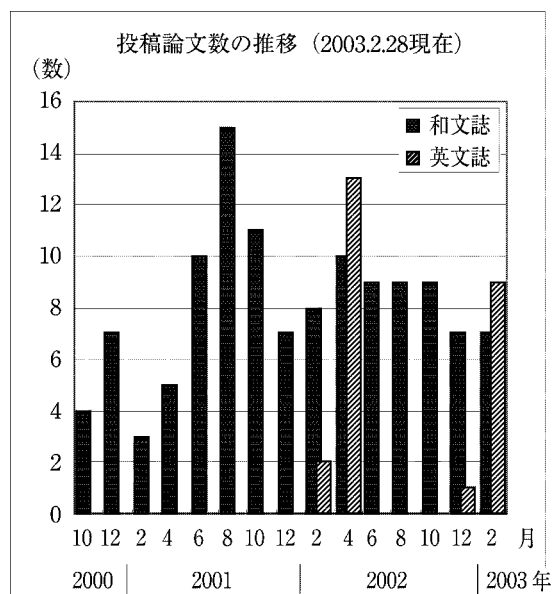
程のもとで行われるか全く分からない状態でしたので、研究をしながら、そのなかで少しでも臨床のために役立つ知識が得られたらという程度にしか考えていませんでした。実際、研究というものに携わってみて、その過程や手技の難しさを実感するとともに、臨床につながるまでの距離に隔たりを感じて、最初はかなり当惑していました。しかし、基礎的実験を積み重ねることによって、徐々にその過程を理解し、手技が上達するだけでなく、研究の目的から結論にいたるまでの一貫した流れというものが理解できた気がします。4年という大学院の短い期間のなかで、直接臨床に役立つような研究をすることは非常に難しく、たくさんの失敗を重ねながら、研究の仕方や手技を学ぶ期間であると思いました。このような研究を繰り返し、継続することによって少しずつ臨床に近づいていくものだと実感いたしました。これからも日々臨床に近づけていくために研究を続けていくことが必要であると考えています。研究のご指導、ご校閲を賜りました昭和大学歯学部有床義歯学教室の芝 燦彦教授に深謝いたします。また研究の遂行に際し、終始懇切なるご指導およびご校閲を賜りました昭和大学歯学部口腔病理学教室の立川 哲彦教授に深謝いたします。また、研究にご理解とご支援をいただきました、昭和大学歯学部口腔病理学教室員各位ならびに同有床義歯学教室員各位に心からお礼申し上げます。

補綴誌 2000～2003 年の 投稿論文数と掲載論文数の推移

2000年から現在までの補綴誌への投稿論文数と掲載論文数を紹介します。論文の数と質は学会活動の評価に繋がります。会員のための補綴誌として一層の充実が求められますが、そのなかで、2002年10月に創刊した英文誌には13編の論文が掲載されました。

編集委員会では、会員の要望に応えるべく、原著論文を始め、症例論文、総説、依頼論文、テーマ論文など、学術成果の発信に努めております。日々の診療と研究にあって、いつも側にある親しみやすい補綴誌として歩むために、会員の皆様のご投稿とご意見をお願い致します。

(編集委員会)



関連学会報告

●平成15年春期第41回日本歯科理工学会学術講演会

平成15年4月18(金)、19日(土)に学術総合センター(東京都千代田区)において浜中人士教授(東京医科歯科大学生体材料工学研究所金属材料分野)を大会長として開催された(口頭発表40題、ポスター発表75題)。今回、日本歯科技工学会と共催で、「デジタルエイドによる歯科技術—ここまでできる新技術—」というテーマでシンポジウムが開催され、本学会の編集委員である宮崎 隆教授(昭和大)が、シンポジストとしてCAD/CAMなどの先端技術について講演された。(広報 北川)

☞ ニュース Dentistry in Japan—2004

Vol. 40 推薦論文

Original article

田辺泰一, 渡辺 誠, 坪井明人 (東北大院)
「顎関節症の治癒に伴う咬合接触面積の動態に関する研究」

補綴誌 46 巻 5 号 722~731 頁

Short communication

春野雅俊, 是枝美行*, 湯本光一郎*, 川畑直嗣,
長岡英一

(鹿大, *九州支部)

「総義歯の交叉咬合排列が発音に及ぼす影響—語音明瞭度検査による分析—」

補綴誌 46 巻 3 号 367~376 頁

次回学術大会案内

●第 110 回日本補綴歯科学会学術大会
第 9 回認定医研修会併催

開催日：平成 15 年 10 月 24 日(金), 25 日(土),
26 日(日)

会場：長野県県民文化会館 (長野)

主管校：松本歯科大学

大会長：甘利光治(松本歯科大学歯科補綴学第 2
講座)

実行委員長：五十嵐順正 (松本歯科大学歯科補綴
学第 1 講座)

準備委員長：倉澤郁文 (松本歯科大学歯科補綴学
第 2 講座)

メインテーマ：「新しい歯科補綴のパラダイム」

特別講演：田中康夫氏 (長野県知事)

*大会スケジュール (予定) はホームページを参
照下さい。

*多数の参加をお願いいたします。

今後の学術大会案内 (予定)

●第 111 回日本補綴歯科学会学術大会
第 2 回日・韓共同学術大会併催

開催日：平成 16 年 5 月 21 日 (金), 22 日 (土)

会場：文京シビックホール (東京)

大会長：大山喬史 (東京医科歯科大学大学院)

●第 112 回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成 16 年秋

会場：神奈川県内

大会長：豊田 實(神奈川歯科大学歯科補綴学講座)

国内関連学会案内

●第 18 回日本歯科心身医学会学術大会

開催日：平成 15 年 6 月 28 日 (土), 29 日 (日)

会場：文京シビックホール (東京)

大会長：小林義典 (日歯大)

特別講演：小野 繁 (東医歯大), 高橋清久 (国
立精神・神経センター)

教育講演：田ヶ谷浩邦 (国立精神・神経セン
ター)

シンポジウム：内田安信 (東京医大), 宮岡 等
(北里大), 石橋寛二 (岩医大),
小林義典 (日歯大), 竹之下康治
(九州大)

●第 33 回日本口腔インプラント学会総会・学術
大会

開催日：平成 15 年 7 月 18 日 (金)~20 日 (日)

会場：名古屋国際会議場 (愛知)

大会長：蒔田真人

準備委員長：堀田康記

メインテーマ：「わが国における口腔インプラン
トの最先端」

<http://www.shika-implant.org/>

問合せ先：敬天堂歯科医院 担当：松本幹広

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751
NC ベラシア アンテリア
硬質レジン歯 (前歯用) 1組...¥780 色調：A1, A2, A3, A3.5, B2
形態：上顎5形態, 下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272
NC ベラシア ポステリア
硬質レジン歯 (臼歯用) 1組...¥1,040 色調：A2, A3, A3.5, B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

SHOFU 世界の歯科市場に貢献する
株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-1 TEL(075)561-1112(代)

TEL : 054-251-0108 (直通)
FAX : 054-251-0359
E-Mail : keitendo@www.i.e-machisite.net

●第14回日本歯科審美学会学術大会

開催日：平成15年11月1日(土)、2日(日)
場所：広島県歯科医師会館，エソール広島(広島)
大会長：新谷英章(広大院)
メインテーマ：「美しい笑顔と審美歯科」
会長講演：石橋寛二(岩医大)「歯科審美の社会的評価に関する一考察」
特別講演：牟田泰三(広島大学長)「星と宇宙」
教育講演1：大山喬史(東医歯大院)「口もとの美」
教育講演2：Jong-Yeop Lee(韓国歯科審美学会会長)「韓国の審美歯科事情」
シンポジウム：「審美歯科における癒し」
テーブルクリニック1：新野まりあ(ハロートゥモロージャパン)「癒される治療とは。患者さんのところをつかむ審美治療」
テーブルクリニック2：飯山賢一(ジーシー)「ITと審美歯科技工…患者さんの情報を伝えるには」
ポスター発表(一般発表)
市民フォーラム：「白い歯と美しい笑顔」

新入会会員紹介

以下の先生方が2003年4月づけで新たに日本補綴歯科学会に入会されました。今後のご活躍を期待致します。

<東北・北海道支部>

福成暢人，岩崎一生，山根州尊，生田泰之，早野慎，長内 隆

<関越支部>

岡田 淳，石黒弘明，奥山美穂子

<東関東支部>

伊藤創平，渡辺厚生，千ヶ崎乙文，亀田行雄

<東京支部>

阿部宏美，吉岡慎太郎，石川由美，ラトナウィーラマノリカ，松木佳史，マハムド アフマド，岡本浩史，山内真紀子，村尾宏池，金 錫林

<西関東支部>

島田和弘，山谷勝彦，尾辻 剛

<東海支部>

横田裕俊，加藤吉晴

<関西支部>

雨宮三起子，渡辺幸奈，中山巴由，若林一道，佐久間泰司，舟津 聡，岩田久之

<中国・四国支部>

大江健史，歌野原有里，甲元友久，平田 誠，宮本泰成，森川英彦

<外国>

譚 京

平成15, 16年度評議員

<東北・北海道支部>

石島 勉，石橋寛二，稲井哲司，大畑 昇，近江谷尚紀，越智守生，金森敏和，鎌田改善，川崎貴生，菊池雅彦，木村幸平，木村英敏，越野 寿，斎藤正恭，佐々木金也，佐々木啓一，塩山 司，嶋倉道郎，清水隆夫，清野和夫，高藤道夫，竹内操，玉澤佳純，日景 盛，平井敏博，二俣隆夫，三嶋 顕，虫本栄子，山田芳夫，山本 秀，山森徹雄，依田正信，渡辺 誠(33名)

<関越支部>

浅沼直樹，魚島勝美，宇野清博，塩屋雅晴，加藤一誠，加藤仁市，小出 馨，河野正司，小司利昭，小林 博，野村修一，畑 好昭，森田修己，渡邊文彦(14名)

優れた機能性と
高い審美性を追求しています



ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪3-26-33 秀和品川ビル6F

TEL. 03-5423-4491 FAX. 03-5423-4521

<http://www.nobelbiocare.com>

<東関東支部>

會田雅啓, 安達 康, 天野秀雄, 石上恵一, 市川正美, 伊豆秀雄, 猪野照夫, 大川周治, 岡根秀明, 岡部良博, 金谷日出男, 川良美佐雄, 岸 正孝, 腰原 好, 小林喜平, 小宮山彌太郎, 齋藤文明, 櫻井 薫, 佐藤 亨, 佐瀬俊之, 嶋村一郎, 谷 勅行, 中庭敏博, 中村一郎, 成田紀之, 松本敏彦 (26名)

<東京支部>

五十嵐孝義, 飯沼利光, 石上友彦, 石田鉄光, 磯和博, 稲葉 繁, 榎本 滋, 大山喬史, 大輪正昭, 尾関雅彦, 棧 淑行, 川口隆彦, 川和忠治, 祇園白信仁, 北川 昇, 金 修澤, 児玉秀夫, 小林義典, 佐藤裕二, 佐藤吉則, 塩沢育己, 志賀博, 芝 輝彦, 新谷明喜, 鈴木 章, 鈴木哲也, 鈴木 満, 谷口 尚, 月村直樹, 中嶋 武, 萩原芳幸, 萩原重一, 波多野泰夫, 早川 巖, 深水皓三, 古屋良一, 松村英雄, 三浦宏之, 水谷紘, 三間清行, 峯 勉, 宮崎 隆, 真柳昭紘, 安田 登, 渡辺嘉一, 割田研司 (46名)

<西関東支部>

阿部 實, 荒川秀樹, 金安英治, 小泉政幸, 椎名順朗, 滝新典生, 田中伐平, 玉井久貴, 豊田實, 中村善治, 永野 忠, 日笠不二夫, 福島俊士, 藤田忠寛, 細井紀雄, 松本亀治, 森戸光彦, 山本克之 (18名)

<東海支部>

甘利光治, 荒木章純, 五十嵐順正, 石神 元, 伊藤 裕, 川口豊造, 川原田幸三, 倉澤郁文, 倉知

正和, 黒岩昭弘, 菅沼聰介, 鷹股哲也, 田中慎二, 田中貴信, 塚本勝彦, 長澤 亨, 藤井 忠, 藤井輝久, 藤原道夫, 星合和基, 蒔田真人, 丸井義仁, 都尾元宣, 森 隆司, 山内六男, 山下秀一郎, 山村 理, 柳田史城 (28名)

<関西支部>

浅井加雄, 池邊一典, 伊崎克弥, 泉谷祐紀員, 井上 宏, 江藤隆徳, 岡崎定司, 小野高裕, 柿本和俊, 兼平治和, 川添堯彬, 黒田拓治, 小正 裕, 更谷啓治, 末瀬一彦, 田中昌博, 長島 正, 中村隆志, 西崎 宏, 野首孝祠, 藤野 明, 前田照太, 前田芳信, 松島 諒, 三木基二, 瑞森崇弘, 宮内修平, 矢谷博文, 山賀 保, 吉田 実 (30名)

<中国・四国支部>

赤川安正, 池田弘一, 池田隆志, 市川哲雄, 河野文昭, 川村康中, 久保吉廣, 窪木拓男, 近藤康弘, 貞森紳丞, 津賀一弘, 柄 俊彦, 中尾勝彦, 中野雅徳, 名原行徳, 羽田 勝, 濱田泰三, 原哲也, 坂東永一, 真鍋 顕, 皆木省吾, 山根 進 (22名)

<九州支部>

熱田 充, 有田正博, 右近晋一, 冲本公繪, 鬼塚雅, 川畑直嗣, 城戸寛史, 古谷野 潔, 佐藤博信, 清水博史, 高橋 裕, 竹迫 清, 田中卓男, 築山能大, 寺田善博, 中村社綱, 長岡英一, 藤井弘之, 細川隆司, 鱒見進一, 松下恭之, 村上繁樹, 山辺芳久, 渡邊芳明 (24名)

☞ ニュース	日本補綴歯科学会会員数 (平成15年4月10日現在)
正会員	6,408名
準会員	11名
法人会員	48社
名誉会員	49名
雑誌寄贈先	36団体 (国内) 27団体 (国外)
計	6,579件 (日本補綴歯科学会庶務報告)





日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財) 口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成 15 年 6 月 10 日発行

コンテンツ

大山執行部の重点課題	1	今後の学術大会案内 (予定)	13
平成 15 年度委員会活動計画	1-5	国内関連学会案内	13, 14
第 1 回韓・日共同学術大会開催される	5-6	新入会会員紹介	14
第 109 回学術大会報告	6-12	平成 15, 16 年度評議員	14, 15
補綴誌 2000~2003 年の投稿論文数と 掲載論文数の推移	12	ニュース	
関連学会報告	12	・新任教授紹介	6
次回学術大会案内	13	・Dentistry in Japan—2004 Vol. 40 推薦論文	13
		・日本補綴歯科学会会員数	15



きゅりあん



学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長：沖本公繪 副委員長：北川 昇

委員：貞森紳丞, 濱野 徹, 松山美和

幹事：諸井亮司

TEL : 092-642-6371, FAX : 092-642-6374

E-mail : kohojps@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座
咀嚼機能制御学分野